2025/2/26

一般財団法人日本規格協会

「認証産業活用の在り方検討会への意見」

これまで「中間整理」で提示された論点に沿って、認証機関、認定機関、支援機関、産業界それぞれで取組みの検討を進めてきたが、より俯瞰的に認証産業の活用、我が国における認証産業、制度のあるべき姿に向けて、意見を申し上げたく存じます。

● JIS マーク制度の活用

JIS マーク制度は国内最大の認証スキームであり、長年の実績もあり、国家規格の JIS と相俟って、国内産業を支える社会インフラの確固たる土台になっています。JIS マーク制度の強化／拡大、国際整合性を高めることにより、国内の安全保障、品質確保、国際的には相互承認の基礎とすることが可能であると考えます。

● 国際整合の重要性

認証産業を活用するそもそもの目的は、「グローバル市場」獲得の手段としての「認証」の活用です。認証をグローバル市場に通用するものとするためには、国内制度が海外で広く受け入れられる、あるいは、海外の適合性評価制度と整合可能である必要があります。それには、適合性評価に関する国際的に広く受け入れられている規格の利用が重要となります。

ISO/CASCO が開発する適合性評価に関する規格（ISO/IEC 17000 シリーズ）は世界中で広く利用されており、TBT 協定からも、国内でもこれらに準拠することが重要と考えます。

なお CASCO では、ISO/IEC 17067 の改訂の議論を進行中で、認証スキームの在り方が整理されようとしています。これは、認証スキーム及びスキームオーナーの今後の在り方に影響を与えるもので、規制を含む国内制度にも影響する可能性があるため、動きを注視し、必要な打ち込みをしていかなければならないと考えています。

CASCO：Conformity Assessment Committee 適合性評価委員会

● ハードローでの活用

認証産業の活用にあたっては、ソフトローとしての利用だけではなく、ハードローでの活用が重要であると考えています。WTO/TBT 協定でも適合性評価手続きに関し定められています。認証のアウトカムが調達基準や技術規制の中で活用されれば、規制当局、事業者双方でコスト削減や効率アップを期待することができます。

ハードローで認証のアウトカムが活用されるためには、認証が信頼に足るものである必

要があります。従って、機微情報の取り扱いも含め、認証産業及び制度のより一層のレベルアップが必要です。産業競争力や安全保障の観点から、各省庁、認証機関、規格策定機関等の関係者がしっかりと議論を行い、産業の底上げをする必要があると考えます。

● 認証ビジネスのエコシステム

国際競争に勝ち抜き、グローバル市場を獲得するためには、国外で構築される認証スキーム（ルール）への対応から一歩前に進み、自らルール作りを行う、認証スキームを設計しなければならないと考えます。

技術の動きも早く、適合性評価の対象も多岐にわたるようになった昨今、規制当局も含めた関係者が関与する認証/適合性評価ビジネスのエコシステムを構築し、ニーズを素早くとらえ、規制の動きと連動した認証スキームを構築できるようにする必要があります。

その第一歩として、各省庁、認証機関、規格策定機関等の関係者が、共通の理解・認識、正しい知識を持つところから始めなければならないと思います。